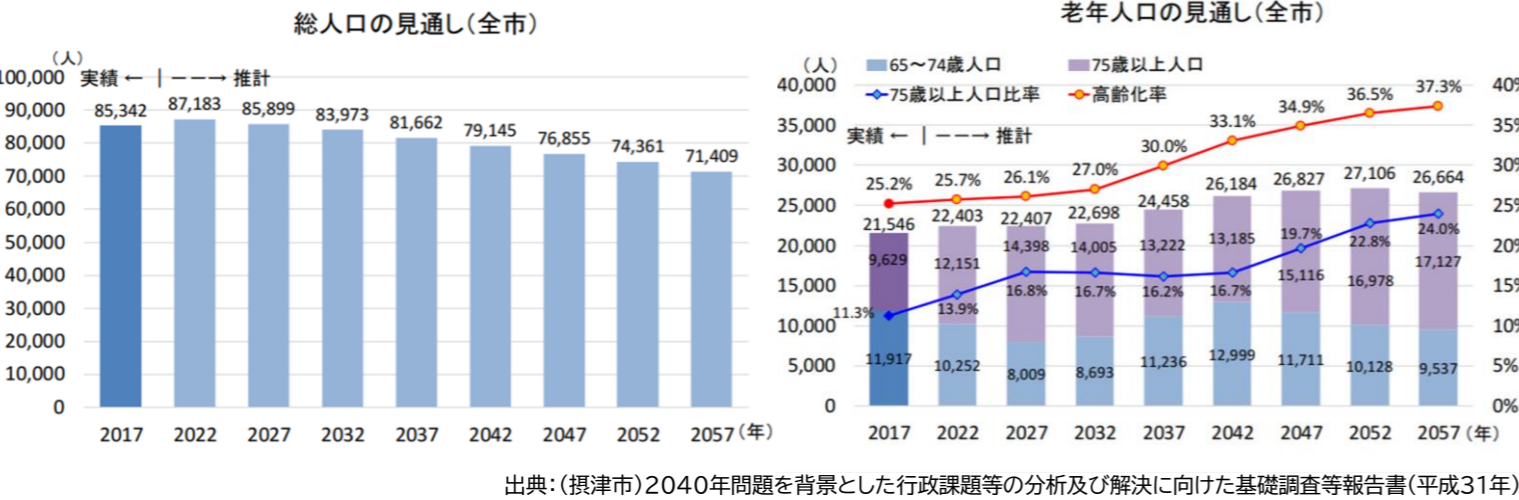


1. 摂津市地域公共交通計画策定の基本的な考え方

本市の課題

- 人口減少・少子高齢化への対応
- 自然災害対策
- 老朽化する公共施設の更新
- DXの推進

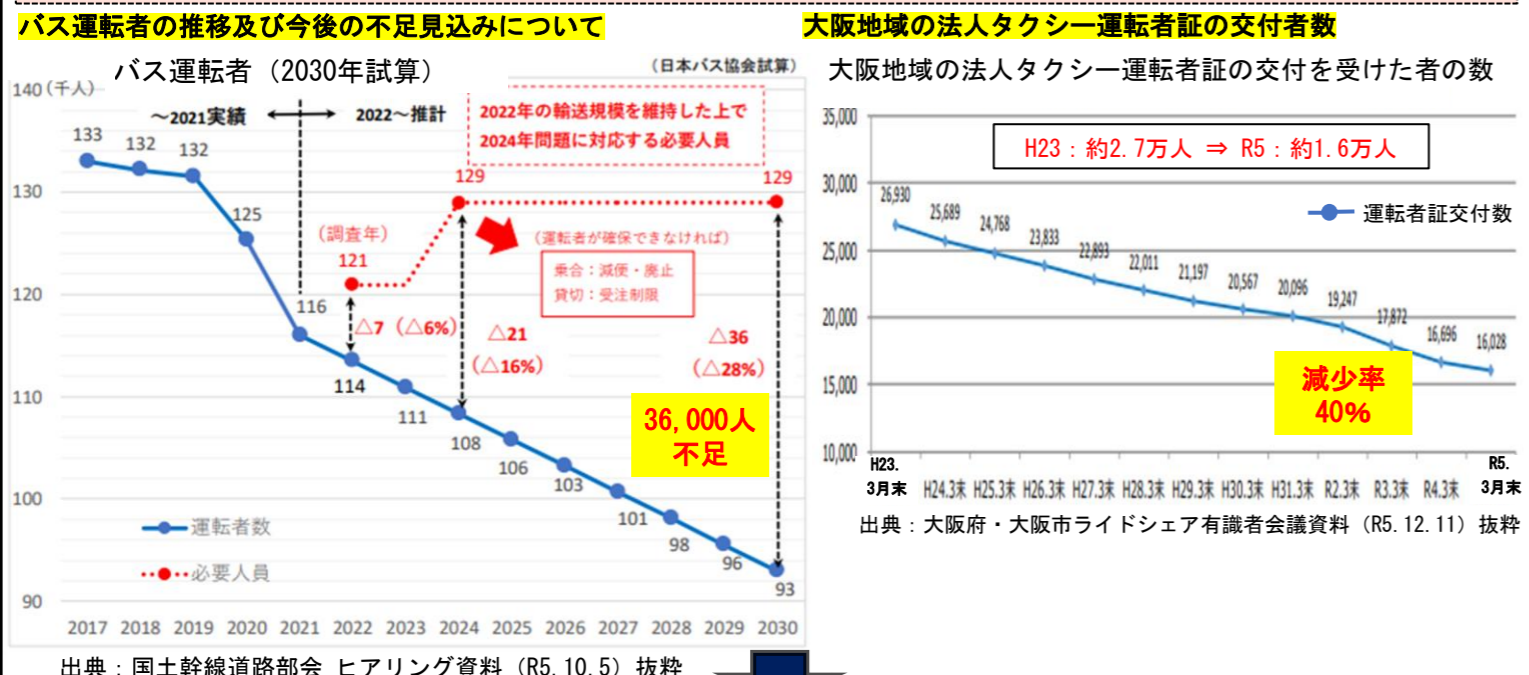


本市の公共交通に関する現状と危機

- 路線バス利用者減少、慢性的な収支赤字
 - R3.3.29～始発繰下げ・終発繰上げ等(阪急バス(千里丘駅～柱本団地))
 - R5.9.1～運賃改定 220円→230円(阪急バス・近鉄バス)
- 循環バス・セッピー号運行に係る継続財政支出
 - 循環バス(補助12,000千円/年):1便平均5.0人(定員44人)
 - 公共施設巡回バス(セッピー号)(委託費約31,000千円/年):1便平均7.4人(定員19人)
- ニーズとの乖離(生活や移動の多様化)
 - 市内の移動について、全体の61.7%が「不便」又は「やや不便」と回答
 - ※特に鳥飼東小学校区で80%を超える
 - 「公共交通の本数が少ない」、「近くに駅がない」
 - 「バス停までや買い物、通院等、比較的近距離の移動手段がない」
- 慢性的な交通渋滞
 - 大阪府内の渋滞地点(ワースト10入り)・・・一津屋交差点、鳥飼和道交差点

○運転手不足【2024年問題】

- バス・タクシー事業撤退等の可能性



■高齢者や移動困難者、子育て世代の移動手段の喪失

取り組みの方向性

- 「摂津市地域公共交通協議会」を設置し、公共交通のマスタープランとなる「摂津市地域公共交通計画(基本計画)」を策定
- 本市の強みを活かす <市域全体は平坦な地形で、安威川以北地域は駅前再開発や道路整備等により、利便性・快適性が向上し、更なる人やモノの集積・移動の活発化が期待>
- 福祉や教育など分野横断的に持続可能な施策の具体化に取り組む

● 基幹交通の確保・維持

施策方針
利用促進、モビリティマネジメントの推進



● 日常生活の移動を支える交通ネットワークの形成

施策方針
セッピー号を含む近距離移動の再編



目指す将来像(30~50年後)

「誰もが気軽に出かけられる、フラットなまち」の実現

平坦な地形や都市基盤を活かした
「多様な交通手段の展開」と「お出かけ機会の創出」

2. 今後の進め方

- ◆ 令和5年度内に、「摂津市地域公共交通協議会」を設置
- ◆ 令和6年度末までに、地域公共交通計画の「基本計画」を策定
- ◆ 令和7年度以降、具体的な施策を定める「実施計画」を策定・実施【セッピー号の再編案】

時期	協議内容(案)
令和6年2月	第1回 ・協議会規約、会議傍聴規程、事務局規程、財務規程の合意 ・今後の進め方 等
令和6年4月~6月	第2回 ・計画目標 ・施策方針・内容 等
7月~9月	第3回 ・KPI(評価指標、目標値) ・施策の深度化・役割分担 等
10月~12月	第4回 ・施策の推進体制 等
令和7年1月~3月	第5回 ・基本計画(案)について(パブコメ前)
	第6回 ・パブコメ結果、取りまとめ結果の報告、基本計画の策定
令和7年度~	・利用促進の取組等(できることから順次取り組む) ・実施計画の策定